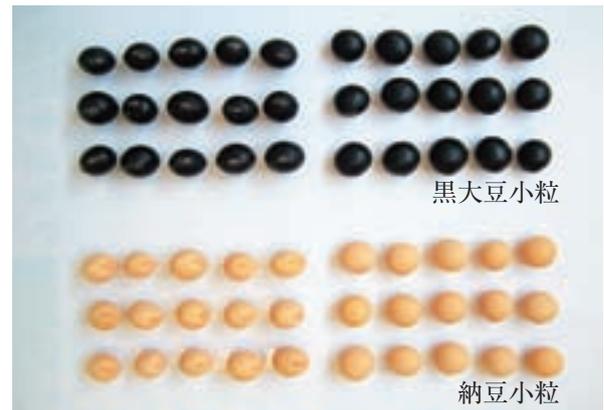


「黒大豆小粒」の栽培特性と納豆における評価

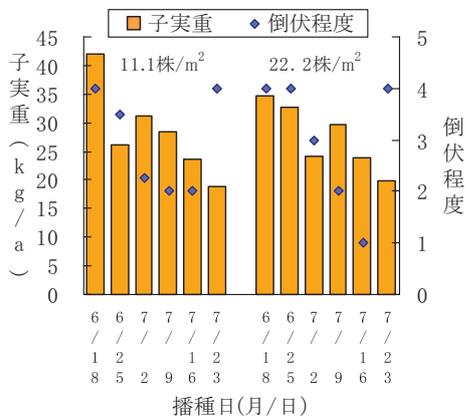
「黒大豆小粒」は小粒で種皮色が黒の在来品種です。茎が伸びやすく、「納豆小粒」と比べると倒伏しやすいですが、栽植密度を11.1本/m²とし、播種時期を7月上旬とすると倒伏を軽減することができます。また、普通畑の他、水田輪換畑でも栽培が可能で同等の収量が得られます。「黒大豆小粒」で作った納豆は消費者アンケートにおいて食味の評価は高く、種皮色に特徴があることから新たな商品開発の原料として期待されます。

● 「黒大豆小粒」の特性 ●

「黒大豆小粒」は農業生物資源遺伝バンクから種子を導入し、栽培特性を検討し選定した在来品種です。「納豆小粒」と比較して、成熟期は9日早いですが主茎長は長くなります。収量はやや少なく、百粒重が12.4gと約2g重くなります。子実中のアントシアニン、ポリフェノール含量は高く、機能性が期待されます。



「黒大豆小粒」の子実形状



栽植密度・播種期の違いによる収量・倒伏程度

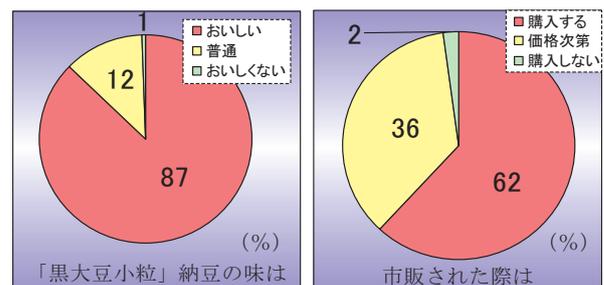
● 栽植密度と播種期 ●

栽植密度を慣行11.1本/m²から22.2本/m²まで増やすと主茎長は伸び、倒伏しやすくなるので、注意が必要です。

6月中に播種すると主茎長が伸び、倒伏しやすくなりますが、7月上旬に播種することで収量は減るものの、倒伏を軽減することができます。7月中旬、下旬の播種では開花までの生育量が少なく、大きく減収します。

● 納豆での評価 ●

消費者を対象とした試食アンケートでは黒大豆を使用した納豆の認知度は高くありませんでした。しかし、「黒大豆小粒」で作った納豆は「おいしい」、「また食べたい」と食味の評価は高く、商品性の高い納豆を作ることが期待できます。



「黒大豆小粒」納豆の試食アンケート結果